

令和 2 年度 特別の教育課程の実施状況等について
児童生徒の意識調査・自己評価・学校関係者評価等による検証結果

1 児童生徒の意識調査より

「相手意識に立つものづくり教育」を学ぶ市内11小中学校の児童生徒の意識調査（下図）を継続してきている。この調査の結果から、当初のねらいに迫る成果が得られてきているものとする。（教育特区として始めた平成20年度から実施）（各問いに1 or 2 と回答した児童生徒数の割合）

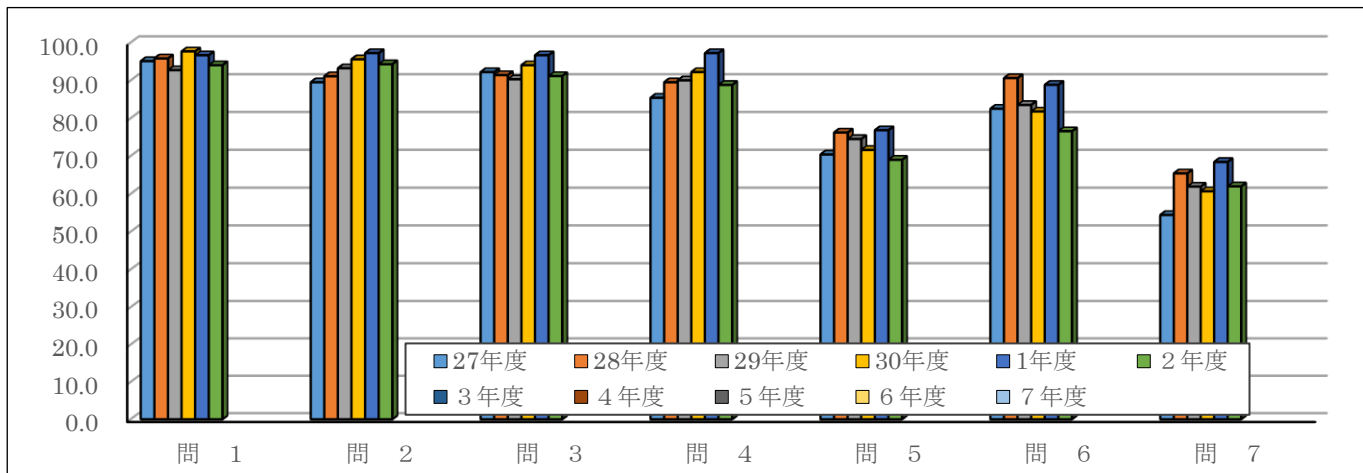
《年度末に実施している意識調査の質問事項》（問1～問7は一つを選択、問8は自由記述）

- 問1 ものづくり科の学習での「ものづくり」や「地域企業での体験」などは、楽しい（好き、おもしろい、うれしいなど）と思いますか？（次の一つに○を）
 1. とても思う 2. すこし思う 3. あまり思わない 4. まったく思わない
- 問2 ものづくり科の学習に積極的に取り組むことができましたか？
- 問3 ものづくり科で学習したような製作や体験を次の学年でもしたいですか？
- 問4 ものづくり科の製作や体験を通して、友だちや家族、まわりの人など「相手の気持ちや願い・希望」などについて考えることの大切さを感じるようになりましたか？
- 問5 ものづくり科の製作や体験を通して、「学校の勉強と働くこと」や「自分の将来の夢などとのつながりや関係」を考える（気にする）ようになりましたか？
- 問6 ものづくり科の製作や体験を通して、将来、社会へ出たら「必要になること・考え方」や「大切なこと」などを考える（気にする）ようになりましたか？
- 問7 ものづくり科の製作や体験を通して、ものづくりのことや、将来の夢や目標などについて、家族や友だちと話したり考えたりするようになりましたか？
- 問8. ものづくり科の学習や体験を通して「考えたことや感じたこと」を自由に書いてください。

小学生の意識の変遷
H27～R2年度

市内小学校5年生 384名(%)

小学生	27年度	28年度	29年度	30年度	1年度	2年度
問 1	95.1	95.8	92.7	97.7	96.6	94.0
問 2	89.5	91.1	93.2	95.6	97.2	94.3
問 3	92.2	91.4	90.3	94.0	96.6	91.1
問 4	85.4	89.5	90.0	92.2	97.2	88.8
問 5	70.4	76.2	74.5	71.6	76.8	69.0
問 6	82.5	90.6	83.5	81.8	88.8	76.6
問 7	54.4	65.4	61.9	60.7	68.4	62.0

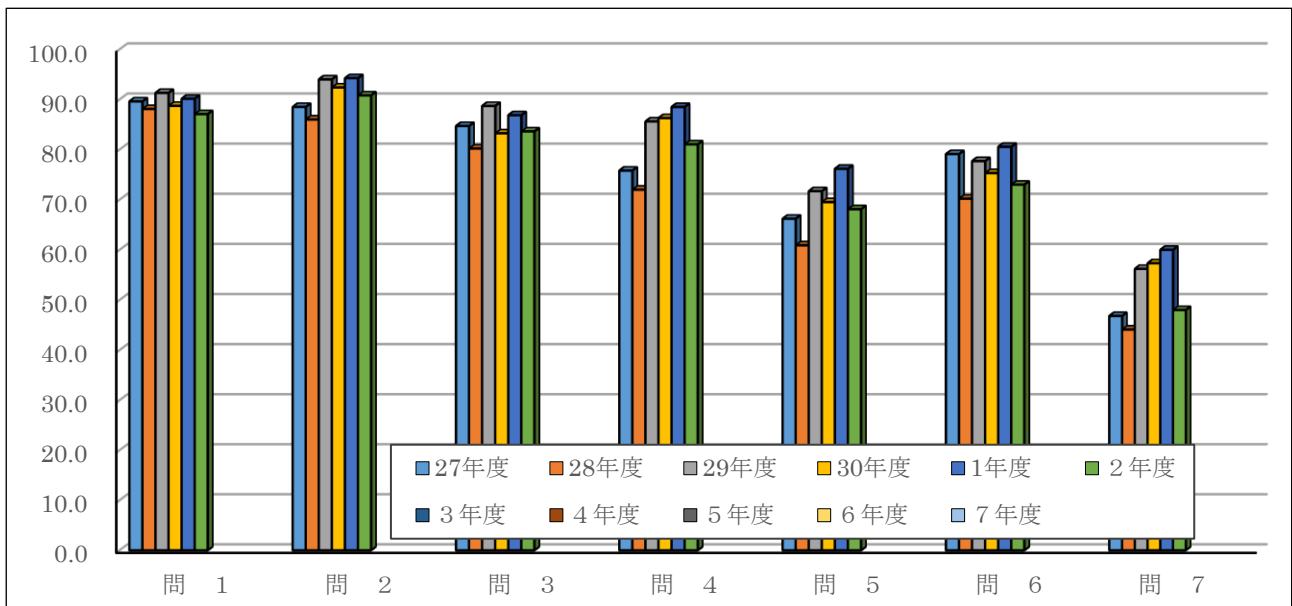


中学生の意識の変遷

H27～R2 年度

市内中学校2年生 348名 (%)

中学生	27年度	28年度	29年度	30年度	1年度	2年度
問 1	89.6	88.1	91.3	88.7	90.1	87.1
問 2	88.5	86.0	94.0	92.4	94.2	90.8
問 3	84.7	80.2	88.7	83.2	86.8	83.6
問 4	75.8	72.0	85.6	86.3	88.5	81.0
問 5	66.2	60.9	71.7	69.5	76.2	68.1
問 6	79.1	70.2	77.7	75.3	80.5	73.0
問 7	46.8	44.1	56.2	57.3	60.0	48.0



2 児童生徒の自由記述より (上記調査 質問項目問8の記述より一部抜粋)
 【小学生の記述から】

- 友達と協力したから早く終わったから、協力って大事だなと思った。
- 作るのはかんたんだったけど、すごくむずかしいことがわかった。
- ものを作る時に、創造力が広がって楽しく作れます。意図などを工夫すれば自分だけのものが作れていいと思いました。
- ものづくりには自由があり、ふしぎと楽しさがあふれていると感じました。
- ものづくり科では、体験ができなかったけど、考えたり感じたりしてできたと思います。
- 作る時は、どんな目的で相手に渡すかなどを考えた。
- 渡す他人が、どう思ってくれるか、どう感じてくれるかなどを考えた。
- ものづくり科では想像力がついた。 ○がんばりがいがある。
- 相手のことを考えてみて、自分の想像の幅が広がった。
- 他人にあげたりするものだからっていいのに、人のことを思って作るのが意外とむずかしかったけど、逆に積極的に取り組めてよかった。
- 相手の要望に応えたり、その人に合った色や形を選んで、自分たちも楽しく作ったりできた。尚喜んでくれてとてもうれしかったし、自分も相手の笑顔を考えてだけでうれしかった。
- ものづくりでは、自分で作る物や相手を喜ばせる事を想像するのだと感じる。
- ものづくり科では「相手のことを考え、相手にあった物」を作ることができてよかった。ものづくり科は楽しいと思えるようになった。お互いに助け合ったり教え合ったりする事が出来た。

- 作った物をもらった人がうれしいかどうかや、使いやすいかなどを考えることができました。
- 頭の中でイメージして作るのが楽しかった。
- ものづくりをするためには、道具や材料が必要だと考えた。
- ものづくりの道具を出してくれる人たちに、とても感謝しています。
- 自分で家族のだれかにあげてよるこんでもらえると心がほっこりして「がんばって作ってよかったな」という気持ちになる。
- ものづくりはこんなに楽しいことなんだと思いました。
- 作る時は、木とかわからなくなりそうな時に、□□の場所とかを書くといいと思った。自分は作ることが好きなので、ものづくりはおもしろいと思いました。
- いつもものづくりの授業が楽しみで、すごく楽しくものづくりができた。
- 来年も続けていきたい。
- 目標や完成図を考えて、それに近づけるように努力することが大事だと思った。相手の好みやわたす相手の事を考えてできたので良かった。
- ものづくりで、灯とぼし山グッズを作り、みんなが買ってくれてものづくりに自信がついたので次もやりたい。
- 学年に関係なく、もっと難しい手のかかるものを作りたい。
- だれかのために、物を作るなどは社会に出ても必要になってくると感じました。
- 今年はやることがとても少なかったりしたので、6年生では、もう少しでもいいから幅を広げてものづくりの活動をしたいです。
- 来年はチャレンジショップで販売をしてみたいです。
- 「こころこうすればもっとよくなる」など、考えたり感じたりできて、その考えるのが楽しかったです。
- 竹などで水とうや寝床などを作りたいな～。家でも火灯山グッズを作りたいな～。
- ものづくりで作る時に、全部楽しかったわけじゃなかったの、「自分にはこれは合わないな」など、自分に合うもの、自分に合わないものが分かった気がしました。

【中学生の記述から】

- 「こころこうすればもっとよくなる」など、考えたり感じたりできて、その考えるのが楽しかったです。
- 竹などで水とうや寝床などを作りたいな～。家でも火灯山グッズを作りたいな～。
- ものづくりで作る時に、全部楽しかったわけじゃなかったの、「自分にはこれは合わないな」など、自分に合うもの、自分に合わないものが分かった気がしました。
- いろんな人が使う物を作る時に、デザイン以外に機能も考えて製作しなければいけないので、ちょっとずつですが「工夫する」ということができるようになりました。
- 今年、はんだごてを使って作品を製作してみて、はんだごてを使うのって結構難しいのだなーと感じました。
- 普段僕が使っているものはすごく正確で、使いやすくなっていることが分かった。なのでこういうことを大事にしていきたいです。
- こんな仕事もあるんだなあと感じました。ものづくりは少し苦手だけど、色々考えられることがあると思いました。
- 作った物には必ずその人の心が現れるんだなと思った。丁寧に思いを込めればその通りに、手を抜けばそれもその通りの作品ができると思う。作品は作者の心そのものだなと思った。
- 「物を作る前」に、「物を作るものを作る」というのがあって、大変そうだなと思いました。
- 普段はあまり考えないことを考えたりできたんじゃないかなと思いました。
- 二年生で行った電気やパソコンの授業で、知らなかったことがたくさんあったので、ものづくり科を通していろいろなことが学べたので良かったと思う。
- 諏訪だけにあるものづくりを発展させていってほしいです。○ものづくりをもっと発展させたいと思った
- 「相手が必要な事（ニーズ）」を考えることは大切だということが分かった。
- ただ自分がいいと思ったものを作るだけではなく、買う人のことを考えて作ることがとても大変で、改めて、そういうものを作る人はすごいな、と思いました。○自分で考えたものを自由に作れるのはとても楽しかった。

- 少し大変でストレスを感じたこともありましたが、「自分の将来の夢などのつながり」について考えることができたので、それを社会に生かしていきたいです。
- もう少し授業時間があつたらいいのに、と思った。物を作るのは楽しかった。
- 今年、チャレンジショップ販売はできなかったけど、使う相手の事を考えて製作できました。

◇地域の方々、保護者 学校関係者の方々からの声を通して

- ①諏訪市の特色ある教育としてもものづくり教育を開始して以来、育てたい児童生徒像を伝え、児童生徒の活動の姿を中心にお伝えしてきた。その結果、広く市民に理解が広がってきている。また、児童生徒の活動に、ボランティアとしてサポートしていただく方々も増えてきています。
- ②中学校3年生では、日頃から地域の方々を支えていただいていることへの感謝の気持ちを伝えるために、地域の高齢者施設や地域公民館、公共施設等で必要としている物品の製作をし、贈呈することを通して地域の一員としての意識を高める活動も広がりを見せるようになってきています。

考察

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大のおそれから令和元年度の3月から令和2年度5月までの3か月間休校となり、相手意識に立つものづくり科の実践も学校が再開されてからも例年通りのスケジュールでの授業実践がかなわなかった。例年ほどの授業時数が確保できなかったりまとまったとりくみの場面が作れなかったりしたことで学校外の人と関わり合う機会が減ってしまった。

そうした影響もあってすべての項目について令和元年度に比べて意識の割合が減ってしまったと思われるが、友達とのかかわりについての意識以外は70～90%の児童・生徒が肯定的な回答をしている。

地元企業の協力による活動はなくなりましたが、ものづくり活動を通じた学びの機会は児童生徒のキャリア発達に関わる意識の向上に寄与していると考えます。

◇意識調査結果より

- ①問1から問3は、ものづくり教育の製作活動や諸体験を通して、ものづくり教育への興味・関心・意欲を把握しようとしたもの。調査対象の小学校5年生および中学校2年生は、毎年変わっていくものの、毎年各問に対して肯定的にとらえている児童生徒の割合は、小学校では80%から90%、中学校でもほぼ80%から90%弱を示しており、子どもたちの興味関心を高めてきているものと考えている。

また、中学生の方が小学生よりも年度によるばらつきが少なくなっている。これは、日頃のものづくり科の授業や地域密着型ものづくり講座等の機会に地域社会の広い世代の方々との交流を通して、働くことやものづくりに打ち込む生きた姿を、五感を通して感じてきている結果の一つであろうと考える。

- ②小学校図画工作科や中学校の技術・家庭科において作品作りを通して教科のねらいを達成しようとしているが、問8の自由記述欄から読み取れることは、教科でありがちなキット教材ではなく実際に使い手を意識して目的に沿ったものづくりをする必要があることから、材料や道具について安全に扱える配慮がされれば、自由なものづくりができる点でつくる過程の困難さやできて相手から感謝の気持ちを伝えられた時の達成感はひとしおである。
- ③以上のことから、コロナ禍におけるさまざまな困難があつたにもかかわらず、担当教師のとりくみとともに地域関係者の協力により、特別の教育課程としての「相手意識に立つものづくり科」の実施目標は達成されたと考える。